

<h1>ハッピー 友訪</h1>	友訪を支える会
	代表 岩崎 正
	創刊号
	2012年6月1日
〒202-0005 東京都西東京市住吉町6-11-16 tel&fax 042 (438) 0091	
http://croomyuuhou.web.fc2.com/	

ご挨拶

理事長 星 登志雄

平成9年にコミュニティルーム友訪は精神障害者の共同作業所として西東京市住吉町に設立され、今年で15年になります。これまで支えていただいた関係各位に感謝申し上げます。私は平成24年4月より三代目理事長に就任しました下保谷在住の星と申します。市民の皆さんに友訪の活動のご理解、ご支援の輪が一層広がることを願いながら本誌を発行することにしました。

さて、友訪が特定非営利活動法人になって7年になりますが、その定款に「この法人は、広く一般市民を対象に、主に精神障害者及びその家族等に対して、社会復帰施設の運営事業を行うことで、その人権を守り、地域社会における自立と社会参加の助長を図り、地域の精神保健福祉の増進に寄与することを目的とする」とあります。西東京市の統計資料によりますと、平成23年4月1日現在の身体、知的、精神の障害者手帳の申請者は6,816人となっており、市人口197,652人の3.4%となっております。数年前の資料と比較しますと申請者の傾向は微増の傾向にあります。特に精神障害者の増加傾向は背景に現代社会が生きづらくなっている事があるように思います。話は飛びますが、約100年前の1918年に呉秀三先生と榎田五郎先生が精神科医療の全国調査に基づいて「…精神病者ハ、実ニ此病ヲ受ケタル不幸ノ他ニ、我邦ニ生レタル不幸ヲ重ヌルモノト云ウベシ」と告発されましたが、その時代からわが国の医療、保健、福祉、社会啓発などはどれだけ進んだでしょうか。

社会の構成員は15歳から65歳までの生産年齢人口、その前後に年少(0~14歳)人口と老年(65歳以上)人口で構成しています。その中に、0歳から死に至るまで障害を持った人たち、難病の人たちがいるわけですが、社会保障は児童福祉、老人福祉、障害者福祉、難病者医療等を考え、一人ひとりがそれぞれのライフステージにおいて十分に幸せになるようにするものと考えています。地域福祉が主流と言われている現在において友訪の果たすべき役割は、定款にありますように「人権」「自立」「社会参加」等を一つ一つ丁寧に取り組んでいくことと思っております。市民の皆さんには今後益々ご理解とご支援の程を宜しくお願い申し上げます。

皆様こんにちは

当作業所も西東京市住吉町に根を下ろして14年余りとなりました。

その間、皆様方のご支援を賜りありがとうございます。

近頃障害者も社会的な活動の必要性が増えてまいりました。

そこで多くの方々にご理解とご支援をいただきたく“友訪を支える会”を立ち上げることとなりました。

別紙会則にてご賛同いただきご参加いただければ幸甚です。

渡邊 信子

日々の

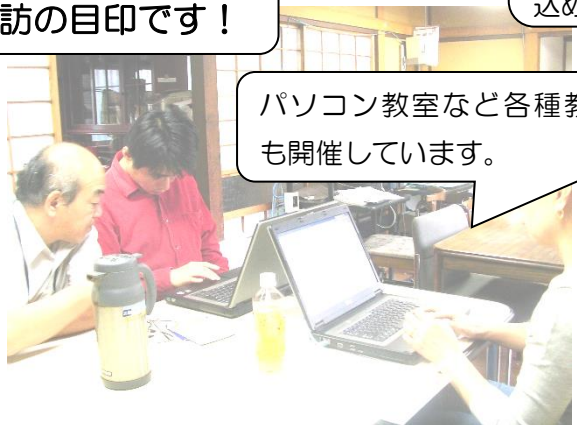
風景



この看板が
友訪の目印です！



毎日の内職作業。
丁寧な手作業で心を
込めて作ります。



パソコン教室など各種教室
も開催しています。



作業室からはのどかな
風景が望めます。